

全国公立学校退職教頭会

# 会報

第62号

平成28年3月31日

東京都港区愛宕  
1-6-7  
愛宕山弁護士ビル  
403号

発行責任者  
会長 山浦 朝日

## 「戦後七十年」——学校の戦後史に思う——

全国公立学校退職教頭会

副会長 武田 寛

昭和二十年八月十五日、学徒動員の工場での午の時報と共に天皇陛下の玉音放送を謹聴し先の大戦の終結を知りました。以来七十年の歳月が経過し今マスコミは「戦後七十年」として各分野の特集を組んでいる。

私は標題についてその戦後史の外観を知ることとは無益なことではなく、むしろ教職に在った者として有益にして必要なことと思えます。

執筆にあたって「戦後の教育改革」や「教育史」の文献を調べてみましたが、その量も多くその総てを紹介することはできません。また、歴史観や教育観などは多分に個人的な面もありますので、普遍性と中道性を観点としてご紹介しますことをご了承賜りたく存じます。

### 戦後の教育改革

昭和	年月	事項
八十五	八月	終戦 文部省戦時教材削除（塗り潰し） 通達
九十五	五月	

二十年	十一月	文部省「新日本建設」の基本方針発表（第二の教育改革）
二十二年	十一月	日本国憲法公布（二年五月二日施行）
二十二年	四月	教育基本法施行（新制小・中学校発足と六・三制）
二十五年	四月	講話及び日本安全保障条約調印
二十八年	八月	学校教育法改正 教科書検定権（文部大臣）
二十九年	四月	新教育委員会法（混同の中で成立）
三十一年	十二月	文部省小・中学校教頭を職制化明記
三十二年	四月	小・中学校教頭を管理職に（管理職手当支給）
三十五年	四月	文相中教審に「後期中等教育拡充整備について」期待される人間等）について諮問
三十八年		右諮問について中教審最終答申
四十二年	十二月	中教審「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本施策」について答申（第二の教育改革）
四十六年	六月	教育委員の人材確保に関する特別措置法（入職法）公布（教員の給与の大巾改善）
四十九年	六月	学校教育法の一部改正公布（教頭法成立） 学校教育法第八十八条（校長、教頭他職）を規定
五十二年	二月	教育課程審議会「小・中・高校の教育課程の改善について」答申
五十六年	二月	中教審「生涯教育」について答申（学教教育の弾力化）
六十二年	六月	全国公立学校退職教頭会 設立総会（東京イン）
六十六年	六月	臨教審「個性重視の原則、生涯学習の重視」について最終答申
七十年	七月	いじめの対策調査研究協力者会議「いじめの問題の解決のための当面とるべき方策」の報告
八十年	八月	中教審「二世紀を展望した我が国の教育の在り方について」子供の「生きる力」と「ゆとり」の諮問に対する第二次答申（以下省略）



戦後の国土の焦土化と社会の不安定な中であって二十年八月二十八日には早くも授業再開の通達が出された。

国の再建の基を教育においた先見の明に感服する。更に二十年「新日本に建設の基本方針」に基づき二十二年公布の憲法の精神（国民主権、平和主義、基本的人権）を原則とした教育基本法の制定であり新制小・中学校の六・三制であり教育の機会均等を標ぼうした画期的な第二次の改革と言われる。

ちなみに第一の改革は明治二十三年公布の教育勅語を基本とした改革であり、第三の改革は四十六年「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策」（中教審答申）を指すが思想、主義、主張の相違による対立を生み、教育現場に少なからず影響を及ぼした改革であった。

「戦後七十年」を経て今、日本の社会、学校、教育の上で課題は余りにも多い。国際性を育てるための教育、自国の歴史と伝統を学ぶ教育、そのための教育制度や教育課程等問題は多岐にわたるが戦後史の道を歩む者にとつて大きな使命とも言えるであろう。



各県の会報に記載されてい  
ます会員の皆さんの投稿文から  
選んで載せてあります。

## 静岡県

六十六歳の遊び 浜松地区 徳武 實



十二月、セブ島でジンベイザメ。三  
月、ポンペイ島で、ブラックマンタを  
シノーケリングで見に来ました。

十月、三年越しの夢の実現に向け  
て、標高三八八〇mに建つ「ホテル・エベレスト・ビュー」  
へ親子丼を食べに出掛けました。  
バンコクで二泊、カトマンズで二泊、エベレスト街道  
のパクディンで二泊、ナムチエで二泊して、五日目の昼  
にやっとシヤンボチエの丘の上に建つホテルへ到着し  
ました。

日本からリクエストしておいた親子丼が、早速昼食  
として出てきました。「やったー」と思わず声が出てし  
まいました。カメラに収めてから、食べ始めました。  
今まで食べた親子丼の味を遥かに越え、その味は、  
まさにエベレスト（世界一）でした。

次は、コック長に持参してきたチキンラーメンを  
作って欲しいとお願いをしました。快く応じてくださ  
り、二日目の夕食と一緒にしてくれました。富士山

頂よりも高く、沸点が低いので期待はしていません  
でした。ところが出てきたものは、玉子、鳥肉、ネギが  
入っており、温かくて美味しく、絶品でした。一緒に  
行った仲間も食し、絶賛してくれました。ネパール人  
のコック長に感謝・感謝でした。

道中、ナムチエの手前の樹間で、エベレストと初対  
面をしました。また、エベレストを眺めるためのホテ  
ルでは、部屋の窓越し・ベランダと食堂の窓越しとホ  
テルの大きなテラスと屋上から世界最高峰のエベレ  
ストを十二分に堪能することもできました。

## 生きがい展

副会長 小林 芳夫



退職教頭会恒例の「生  
きがい展」が十一月二十  
八日より教育会館で開  
催されました。手芸品は  
静岡の中島優美さんの  
「シヨウブのタペスト  
リー」と松山美智子さんの「パッチワーク」三点  
が展示されました。和紙人形は富士の田中たか子  
さんが毎年出品され、今年は助六曲廊初花桜とい  
う二十数体の人形が踊っているものでした。

書では静岡の長屋梅子さんの「杜甫の詩」「正  
岡子規の歌」磐周の栗田芳安さんの「経典三部作」  
浜松の片田和典さんの「唐の詩」磐周の佐藤俊三  
さんの「遠江」鈴木美智子さんの「秋色静中生」  
など力作ぞろいでした。

写真では、静岡の三浦光明さんが、かつての県

庁・市役所・市内電車やバスなどの停留所のなら  
かしい街中を撮られたものや、浜松の長谷川茂樹  
さんが、人の気付かない樹の下や風景を撮られた  
写真、竹本清治さんの駿府城公園の色づいた秋の  
景色などの他に、奥村久雄さんのスペイン旅行の  
思い出など多彩でした。絵画では、清庵の瀧博行  
さんのほのぼのとした「春の訪れ」四点や小生の  
水墨画二点と磐周の萩野三男さんの「河口湖」な  
どでした。

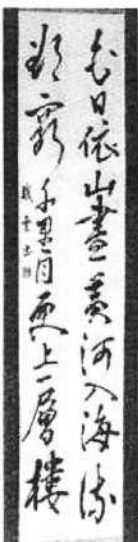
今年最も異色の出品は、三島の吉田典嘉さんが  
出品された合奏編曲集CD「ふるさと」「花は咲  
く」でした。ぜひ聞いてみたいものだと思いが  
ら展示しました。これからも、二年に一度「生き  
がい展」を開きたいと思っています。多くの方々  
の参加を期待しています。

表題「生きがい展」ポスター

清庵 瀧 博行氏制作

## 杜甫の詩「絶句」

静岡 長屋梅子



助六曲廊初花櫻

富士 田中たか子

助六が探し求めている刀を意休が持っているのではと、けんかをふきかけ刀を抜かせようとしている有名な歌舞伎の一場面を作品にしてみました。

それぞれの役柄にてきした衣裳に仕上げたいと和紙をさがしたり、はりで模様を作ったりと大変でした。

作品が仕上がった時の喜びは、次への意欲へとつながり、これからも続けていこうとはりきっています。



## 秋田県

### 交流研修会

大信田 良平

・交流研修会の第一日目は総会のあと青少年交流センターの体育館で、ニュースポーツ『ユニカー

ル』を行いました。ユニカーの用具は県立体育館から借りて準備し、ゲームは三人一組になり、富樫氏のルールの説明とやり方を教わりながら、二レーンを使って行いました。今回で三回目、回数を重ねることユニカーの楽しさを味わうことができました。

・第二日目は、秋田市寺内地区・高清水公園内にある『史跡秋田城跡』を見学しました。秋田城跡ボランティアガイド二名のご案内で収蔵庫の出土品、外郭築地塀、水洗廁舎跡、政庁跡等を見学しました。当日は天気にもぐまれ、少し蒸し暑い中の見学でした。

・ところで、この「秋田城」はいつごろ作成されただろうか。奈良時代から平安時代にわたって、東北地方の大規模な地方官庁の遺跡である。七三三年に庄内地方にあった出羽棚が、秋田村高清水岡に田城と呼ばれるようになった。奈良時代には出羽国の政治を行う「国府」が置かれ、津軽・北海道・渤海国などの外交・北方交易の場所として重要な役割を果たしていた。

昭和十四年に国の史跡に指定され、昭和四十七年から秋田市教育委員会が発掘調査と保存を現在も継続しています。発掘と調査されたあとは、復元整備され、史跡公園となっております。

史跡秋田城跡の周辺には、数多くの文化財があります。

『伊藤永之介の歌碑』である。「山美しく、人貧しい」は晩年の永之介が好んで記した言葉である。

護国神社の裏に建立されています。

『菅江真澄の墓』である。江戸時代後期の紀行家で、遺言により、田村神社の神主、鎌田正家の墓域に葬られ、市の史跡第一号に指定されています。



秋田城跡 ボランティアガイド案内

『西来院』曹洞宗少林山と号し、羅漢さんとも呼ばれている。寺宝に「涅槃図」があり、県の有形文化財に指定されています。毎年、四月十九日に涅槃祭が行われています。秋田市教育委

員会では、ここ高清水の寺内地区の「文化財マップ」を作っています。マップを見ながらぐるっと歩いて、見て、楽しんで。

つれづれなる思い

真味

和賀 ウメ(横手市)

戦時中を除けばおおむね楽しい日々の九十五年間だった。今後は、真味は、ただ是れ淡なりを旨として生きたい。

迷い

西宮 三夫(秋田市)

運転免許証の更新時期が来る。返納してしまえば、運転からは解放されるだろうがその後の生活を考えると・・・